

東京都がん対策推進協議会

第 1 0 回

小児・A Y A 世代がんワーキンググループ

会 議 録

令和 6 年 1 0 月 2 3 日

東京都保健医療局

(午後 6時00分 開会)

○田村医療連携・歯科担当課長 お待たせいたしました。

ただいまより、東京都がん対策推進協議会第10回小児・AYA世代がんワーキンググループを開会いたします。

私は今年度よりがん対策を所管してございます、医療政策部医療連携・歯科担当課長の田村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日のWeb会議に当たりまして、委員の皆様には2点お願いがございます。

1点目は、議事録作成のため、必ずご所属とお名前をおっしゃってからご発言いただきますようお願いいたします。

2点目は、ご発言いただくとき以外はマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。

なお、本日の会議は後日資料及び議事録を公開させていただく予定でありますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議資料でございますけれども、委員の皆様には事前にデータにて送付いたしております。次第に記載のとおり、資料1から4までと参考資料1から2までとなります。

続きまして、委員の皆様のご紹介です。

今回から新たな任期となっておりますが委員の交代はございません。本来ですと、ご紹介して委員の皆様から一言ずつご挨拶いただくところでございますけれども、新しく委員に就任された方がいらっしゃいませんので、今回は詳細についてはお手元の資料の2-2のワーキンググループの委員名簿でご確認いただければと思います。

なお、本日は橋本委員からご欠席とのご連絡をいただいております。それ以外の皆様には、ご出席予定と伺っております。

ぜひ皆様より忌憚のないご意見を賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして、ワーキンググループ長を選任いたします。

資料1、「東京都がん対策推進協議会設置要綱」をご覧ください。

こちらの2ページ目の第10の2におきまして、ワーキンググループ長は座長の指名により選任する、と規定しております。事前に東京都がん対策推進協議会座長より、国立成育医療研究センター小児がんセンター長の松本委員をワーキンググループ長に指名するというので、事務局で伺っております。

松本委員、よろしいでしょうか。

○松本ワーキンググループ長 どうもありがとうございます。

国立成育医療研究センターの松本でございます。

今回の東京都がん対策推進協議会小児・AYA世代がんワーキンググループは、都内の医療機関における小児・AYA世代への医療提供状況を踏まえて、長期フォローアップ等多様なニーズに応じた環境整備に向けた検討を行うワーキンググループということ

になっております。

今日は、今までの令和6年度の事業内容、そしてがんポータルサイトの改訂、この二つの柱について少し皆さんと議論を進めていきたいと考えております。

皆様の活発なご意見を頂戴したく存じますので、お忙しいところ申し訳ございませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 ありがとうございます。

それでは、これ以降の進行につきましては、松本ワーキンググループ長にお願いいたします。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

それでは、ここから先は私のほうで進行を進めさせていただきたいと思います。

最初に、議事の（１）令和6年度の事業についてでございます。

それでは、事務局からご説明をお願いします。

○田村医療連携・歯科担当課長 事務局よりご説明いたします。資料3をご覧ください。

こちらは東京都における令和6年度の小児・AYA世代がんに関する取組になります。本日は、五つの事業についてご説明します。

2枚目のスライドにお進みください。

一つ目が東京都小児・AYA世代がん診療連携推進事業です。小児・AYA世代がんに関しまして、高度な診療提供体制を有している都内の医療機関の専門性を生かした診療連携体制を確立することで、がん患者に速やかに適切な医療等を提供することを目的としています。

本事業の内容は、東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会の運営と小児がん地域連携推進研修会の開催の二つで構成されています。取組内容としまして、都立小児総合医療センターに事務局を委託し、小児・AYA世代がん診療連携協議会を設置してございます。スライドの図にお示ししているとおり、協議会には小児がん診療連携部会、AYA世代がん診療連携部会、相談・情報支援部会を設置しまして研修会や普及啓発等を実施しています。

また、地域の小児科医が対象とした研修会も実施してございます。この研修会を通じて、患者が速やかに高度な小児がん診療体制を持つ医療機関に紹介され、早期診断や治療を受けられることを目指してございます。

次のスライドにお進みください。

二つ目がAYA世代等がん患者支援事業になってございます。

この事業は様々なニーズを持つAYA世代のがん患者に対し、それぞれの状況に沿った医療提供体制を構築することを目的としてございます。

本事業の内容は、AYA世代がん患者相談支援事業と小児・AYA世代がんワーキンググループの開催の二つで構成されてございます。

A Y A世代がん患者相談支援事業につきましては、都立小児総合医療センターと聖路加国際病院にA Y A世代がん相談情報センターを設置し、相談支援員の方々が専門的な相談に対応してございます。また、がん患者への相談支援に加え、がん患者同士の交流機会や相談員同士が連携できる場を提供してございます。そして、相談員のための相談支援マニュアルの作成も行っています。昨年度は「妊孕性温存、がん・生殖連携」をテーマとしましてマニュアルを作成してございます。こうした取組を通じて、相談支援の充実を目指しています。

本ワーキンググループにつきましては、小児・A Y A世代の多様なニーズに応じたテーマについて検討を行います。今年度は今回も含めて2回開催予定ですので、皆様どうかよろしくお願いいたします。

次のスライドにお進みください。

こちらが若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業です。

この事業では、若年がん患者が将来の妊娠に備えながら希望を持ってがんなどの治療に取り組めるよう支援することを目的としてございます。

本事業の内容は、若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業と東京都がん・生殖医療連携ネットワークの二つで構成されています。

まずは、助成の概要です。

生殖機能温存治療、凍結更新、そして、がん治療後の妊娠のための治療を一体的に支援し治療費を助成してございます。助成の対象は、指定医療機関で受けた治療となりまして、助成の上限額はご覧のとおりとなっております。都では令和3年度から事業を実施しておりまして、令和5年度の助成件数は合計で441件となっております。

次のスライドにお進みください。

こちらは、東京都がん・生殖医療連携ネットワークについてご説明いたします。

本ネットワークの運営は、聖路加国際病院に委託して実施してございます。このネットワークでは、妊孕性温存を希望する患者が円滑に治療を受けられるよう、施設間の医療・情報連携を推進し、患者の意思決定支援の質の向上に取り組んでございます。ネットワークは図でお示ししているとおりの組織体制で運営しています。全体で集まる総会、取組を検討する幹事会と三つの企画委員会です。幹事会では、各委員会の活動を取りまとめてございます。

主な取組は、医療従事者向けの研修会やセミナーを開催し、連携強化や意思決定支援の向上を図ること、市民公開講座の開催により、生殖機能温存治療の啓発を図ることです。今年度は11月と3月に開催する予定としてございます。

ネットワークの参画医療機関につきましては、全部で73施設あります。このうち、生殖医療を行う指定医療機関が24施設、がん診療を行う原疾患治療施設が63施設で構成されておりまして、生殖医療とがん診療を行う指定医療機関が14施設でございます。

ので、この14施設については重複している形になります。

次のスライドにお進みください。

四つ目が若年がん患者在宅療養支援事業です。

若年がん患者の在宅療養の充実を図るため、介護保険制度の対象とならない40歳未満のがん患者に対しまして、在宅サービス等の費用を助成する区市町村の取組を支援してございます。補助は表の①から⑤で示していますとおり、主治医意見書の作成、ケアプランの作成、居宅サービスの利用、福祉用具の貸与、福祉用具の購入が対象となります。助成の内容は区市町村によって異なります。現在、六つの自治体で実施しております。加えて葛飾区も今年度から実施予定となっております。

次のスライドにお進みください。

次が、がん患者等へのアピアランスケア支援事業です。

脱毛や乳房の切除など、がん治療に伴うアピアランスの変化の悩みを抱えている患者に対しまして、ウィッグなどの購入等にかかる費用を助成する区市町村の取組を支援してございます。対象品目は医療用ウィッグ、毛付き帽子、人工乳房、補正下着、弾性着衣となっております。1人当たり2回までの補助を行います。令和5年度の実績につきましては全部で3,452件でして、医療用のウィッグがその大半を占めてございます。助成の内容は区市町村によって異なります。現在42の自治体で実施されてございます。

以上が令和6年度の事業についての説明になります。

ここまでの内容について、ご質問やご意見等ございましたらお伺いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○松本ワーキンググループ長 どうもありがとうございました。

事務局から令和6年度の事業について説明があったところでございます。

なかなか複雑ですけれども、このワーキングは、小児がん診療連携部会とAYA世代がん診療連携部会、そして相談情報部会という三つの専門部会が小児・AYA世代がん診療連携協議会の中にありますが、それを横断的につないで支援に特化したワーキングということになります。

ですので、支援全体、生殖機能の問題、在宅の問題、アピアランスの問題について、都がこれから取り組んでいく内容を今ご説明いただいたということでございます。

皆さんのぜひ忌憚のない意見をお願いできたらと思います。Teamsの挙手ボタン、があると思いますので、ご意見のある方は積極的に発言していただければと思いますが、いかがでしょうか。

鈴木委員、どうぞ。

○鈴木美穂委員 こんにちは、鈴木です。「STAND UP!!」という若年性のがん患者団体を自分が24のときに乳がんになった翌年から14年前に立ち上げて、今はマギーズ東京というがん患者さんやご家族が無料で相談できるセンターを運営しています。

改めましてよろしくお願いします。

私が闘病していたときと比べて本当に充実してとてもありがたい支援がたくさん出て、今日聞いていても本当に充実して良いとありがたく思っているというのがまず一つ目です。

という中で、まだまだ、例えば、カツラが高過ぎて買えないことをご相談してくださる方がいらっしゃいます。妊孕性温存についても、すごく周知はされているようになっているけれども、それでも病院によってはなかなか全ての病院でしっかりとそのご案内ができているとはまだ思えないという状況です。

今、こういった支援策を充実していくというのはとても大事で、本当にその内容については最大限やっていただいているように私は感じてはいるのですが、それを広く、必要な方に全て届けるというところについては、どれぐらい今頑張られていて、どんな状況になっているのでしょうか。

助成があるという話がどこまでご本人に、アピアランスケアについても普通に病院にかかっただけという方に対して、どこまでそれが周知されているか把握されていますでしょうか。

○松本ワーキンググループ長 事務局から何かご意見、ございますでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 今回ご紹介した支援につきましては、区市町村を通じて行っているものに関しては、区市町村から周知をしていただいているところであり、また、妊孕性温存に関しましては都で直接やっておりますので、都のホームページを通じて行っているところになってございます。また、がん相談支援センターなどとも連携しながら、都の助成事業について情報提供しているような形になってございます。

なかなか全ての人にはいかないところはございますけれども、周知に関しては今年度にポータルサイトの改修等を行いますので、その中でできる限りやっていければと考えているところです。

○鈴木美穂委員 ありがとうございます。

治療の選択もそうですけれども、治療とともに生きていくための情報収集、助成を受ける、支援を受けるところにおいても、ますます情報戦になっている感じがすごくして、情報を持っている人は得をする、支援を受けられるけれども、持っていない人はお金もなければ支援も受けられない状況になってしまって、格差が開いてしまっているように感じる場面がありまして、それが、この支援が充実されていく中で解消されるといいと感じております。

○松本ワーキンググループ長 鈴木委員、ありがとうございました。

周知に関しましては、次の議題でポータルサイトの改修がございますので、その辺りでまたぜひご意見いただければと思います。

あともう一つ、周知も大事ですが、例えば、始まったばかりの事業ではありますが、在宅の支援事業がまだまだ実施自治体が千代田区・江東区・世田谷区・足立区など、七

っしかないです。東京都に自治体が60ぐらいある中の、まだこれだけしか若年性の在宅療養ができていないとか、あるいはアピアランスケアにしてもまだまだ42区市町村ですので、まだまだ必要ではないかと思います。そういうところもぜひ東京都が主導していろいろやっていただければいいと思っております。

ありがとうございました。

○鈴木美穂委員 ありがとうございます。

○松本ワーキンググループ長 清水委員、どうぞ。

○清水委員 ありがとうございます。

先ほどの鈴木委員の周知ということに関してですが、ポータルサイトの改修も、この間「がんとの共生部会」に参加させていただいてそれ自体は情報を分かりやすく届けるという意味では大事だと思っていますが、やはり、医療機関で患者さんを拾い上げて、情報につないであげるということをしていかないと、なかなか自治体のホームページを見にいくというアクションにはつながらないと思います。国の施策の中では、AYA支援チームを拠点病院につくることが望ましいということで、今後必須化されていく方向で動いていると思いますが、AYA支援チームというものを、それぞれの病院で支援するチーム・人材を配置していただくよう、都でも支援していただきたいと思います。

私はいろいろなところでAYA世代のがんについて講演する機会をいただきますが、病院の中で支援していきたいと思っているけれども、やはり自分たちも情報をどういふふうを集めたらいいかわからないとか、体系的に学ぶ機会がないとか、そういったところにニーズがありまして、そのような人材育成の部分で、ぜひ東京都からのご支援があるとよいと思っています。と申しますのも、国拠点の事業で頂いている補助金の中では、人材育成に補助金を使うことができないものですから、どの病院も広報活動には補助金が使えらるけど人材育成には補助金が使えないというところで、持続可能な形で人を育てることができていないというのが今の現状だと思っています。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

支援に関わる部門の人たちの人材育成ということでよろしかったでしょうか。そうすると、例えば、相談員をもう少しきちんと育成したりとか、そういう話にもつながるのでしょうか。それとも、もう少し現場のほうにしたらいいとか何かございますか。

○清水委員 相談員の方は、AYA世代の方以外にも様々な患者さんの対応をされている中で、結構いっぱいいっぱい、ワンストップで話を聞くけど、そこから詳しい人になぐ役割になるのではないかと思います。施設にもよると思いますが、例えば現場の看護師の方など、患者さんに近いところでニーズを拾い上げる人たちに、もう少し知っていただく必要があるかと思っています。

○松本ワーキンググループ長 そういう意味での人材育成を重視するということですね。ありがとうございました。

ぜひ、東京都も支えていただければと思います。事務局は何かご意見ございますか。

○田村医療連携・歯科担当課長

人材育成に関しまして、患者さんに近いところという意味で言いますと、都では今年度、ピアサポーターの養成を実施していくこととしておりますので、そういった取組を通じて、患者さんに情報を伝えられるような人材育成ができればと考えているところです。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

○清水委員 ピアサポートですけれども、「がんとの共生部会」でお話し伺って、やはりAYAはAYAならではのいろいろなニーズがあるというところもありますので、そのうちの1回をAYAのテーマにするとか、何かそういった方向性で小児・AYAの方々に利するような形で人材育成ということをご検討いただきたいと思います。

○松本ワーキンググループ長 ぜひ、都として考えていただければと思います。ありがとうございます。

湯坐委員、どうぞ。

○湯坐委員 都立小児の湯坐です。

まず、確認させていただきたいのですが、東京都には「がん」と名前のついた協議会がいくつかあるかと思いますが、この東京都がん対策推進協議会は東京都のがん対策の大まかな方向性を決める場所であって、今回は小児・AYAの話ですので出ておりませんが、国のがん対策推進基本計画の中で各都道府県に設置することを求められている協議会があると思いますが、各都道府県に設置が求められているがん診療連携協議会があったり、先ほど紹介していただいた東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会では、実際の実務者のレベルで、東京都のがん対策の方向性を決めたものを実際に現場に合うように実施していく実施体と認識しているのですが、その理解で正しいでしょうか。

○松本ワーキンググループ長 事務局の方、どうですか。

○田村医療連携・歯科担当課長 その認識で間違っていないと思います。

○湯坐委員 分かりました。ありがとうございます。

それで、先ほど資料3に則ってご説明いただいて、小児・AYA世代がんに関する東京都の今の取組ということでお話しいただいたのですが、実は、別の会議体でも似たことをやっていて、例えば、資料3の東京都小児・AYA世代がん診療連携推進事業の中ですと、小児がん診療連携部会の中に長期フォローアップのワーキンググループがあって、AYA世代がん診療連携部会の中にも成人への移行を考えた長期フォローアップをやろうという動きがあります。また、都道府県の成人の協議会にも参加させていただいており、そちらでも長期フォローアップを何とかしようという話があって、松本先生とか僕とかは全部に参加させていただいている状況ですけれども、これを小児・AYA世代がんワーキンググループの親会の協議会が、東京都のがん施策の方向性を決めるのであれば、その辺をうまく統合して一つにまとめたら、すごく力も集まるし、いろいろなことをそれぞれでやっていて訳が分からなくなるということもなくなると思うので、各協議会の中でやっていることをまとめるという方向性をぜひとも出していただきたいと思います。



思います。

妊孕性温存に関しても、小児・A Y A世代がん診療連携協議会でもやっていますし、A Y A世代がん患者相談支援事業でもやっていますし、聖路加さんにあるネットワークでも似たような育成事業をやっています。個々にやって、そこには同じメンバーが参加されているので、東京都はいろいろな専門性のある病院があったり、専門性のある先生がいたりということで、これを一つにまとめてうまく実施していったら、あつという間にいろいろできると思うので、各協議会の中をうまく調整することを、ぜひとも、この方向性を決める協議会の中で進めていただければと思っています。

我々が提言することでそれが達成できるのであれば、ぜひとも提言させてください。

○松本ワーキンググループ長 はい、ありがとうございます。

部会とワーキンググループが縦糸と横糸みたいな関係になっていると思いますが、事務局は何かご意見ございますでしょうか。

○事務局 東京都の中村です。湯坐先生、ありがとうございます。

最近、この話をさせていただいて、毎回同じような答えになるかもしれませんが、小児・A Y Aに関する具体的な検討を行うにあたり、成人ではがん診療連携協議会がある中で、小児においてはそういった協議会のようなものがないというところで、都独自に東京都小児・A Y A診療連携協議会が立ち上げたところでございますが、今度、逆にこの成人の協議会で、積極的に長期フォローアップを進めていくなど、A Y Aに関連していかなければいけないということが出てきて、大分かぶり感が出てきたので、今回、松本先生と湯坐先生に、成人の協議会にも関わってもらうことにしました。私共も、できれば成人と小児が一緒にやっていったほうがよいと考えており、お二人に入っていておりますが、形としてどういう形がいいのかというのは我々も模索しているところです。場合によっては、成人の協議会でそういったA Y Aの部会などを立ち上げていただくのがいいと考えています。

逆に、成人の協議会も基本的にはがんの関係者の方々ばかりですので、長期フォローアップ、移行期支援、移行期医療という形になってくれば、恐らく一般の診療科にも絡んでもらわなければいけないだろうと考えていますので、その辺りの仕組みをうまく考えていかなければと思っています。

また、先ほどお話のありました妊孕性の話ですが、確にかぶっているところがあるので、小児・A Y Aの協議会のA Y A部会の中で、妊孕性については、ネットワークでやっていきたいと思いますという話になりまして、改善させていただいた部分がございます。

ただ、とても重要な課題だと思っていますので、先生方がお忙しい中でいろんな会議体に集まっていたくのは、無駄な時間になってしまう可能性もありますので、すぐに形を示せる状況ではありませんが、こちらとしても考えていますので、場合によっては、皆さんからご意見を伺わないといけない機会もあるかと思います。その際はどうぞよろしく願いいたします。

○湯坐委員 ありがとうございます。

設置根拠が、がん対策推進基本計画に基づいているものと、東京都の先進的な事業としてやっている協議会がある中で、設置根拠が違うとそこを乗り越えるのが医者レベルですと難しいとされていて、そこは保健医療局さんにうまくマネージメントしていただくのが一番いいと思うので、ぜひよろしくお願いします。

○松本ワーキンググループ長 よろしくをお願いします。

資料の2-1で東京都がん対策推進協議会の委員名簿を付けていただいているのですが、小児がんに関係する方が患者代表の山下理事長のみであって、病院関係ですと成人主体、あるいはそれ以外の看護ステーションとか、そういうところが主体になって、小児がん拠点病院である私たち、あるいは湯坐先生の都立小児がこの学識経験者の中には1人も入っていらっしやらないというのも、東京都のがん対策を進めるに当たっては少し残念だと思うところがありますので、ぜひその辺りもお考えいただければと思います。ありがとうございました。

渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 昭和大学の渡邊でございます。

今、体制の話をしているところで、ピンポイントなお話で申し訳ないのですが、現場にいますとアピアランスケア支援事業について、市区町村での格差というものを課題として感じております。もちろん、市区町村で違いがあるのは分かるのですが、今行われていない市区町村に対して、あるいは自治体によって金額の差があると思うのですが、その辺りの是正について東京都としてどう考えているかをお伺いできればと思います。

あと、補正具等、人工乳房、補正下着に関する補助・助成の疑義照会について、どこが窓口になっているか、お教えいただけますでしょうか。

ちなみに、妊孕性温存に関しては、女性の方から様々な疑義照会があるのですが、それはがん・生殖医療学会の中にそういう部門をつくって、自治体から受けるという体制を取っています。その辺りについて、東京都がどのような体制を取っているか教えてください。

○松本ワーキンググループ長 事務局の方、よろしくお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長

まず、補助の金額に関しては、確かに自治体によって差が結構ございます。区部ですと10万円を上限にしているところも多いですが、市町村ですと1万とか2万が上限になっているところも多いと把握しているところです。その点は自治体の財政状況であったり、考え方によっても変わってくる場所ですので、こちらとしては一概にどの自治体もいくらししてくださいと規定することはできませんが、できるだけいろいろ見ていけるようにしていきたいと考えておりますし、また、まだ実施していない自治体に対してはできるだけ取組んでいただくように周知等は努めているところです。

なお、今年度は42の区市町村が取り組みを進めていただいておりますが、昨年度の令和5年度は27でしたので、それに比べると数は多く増えてきているところですが、まだ、町村や島しょなどで取り組んでいらない自治体もありますので、引き続き実施いただけるように周知等をしていきたいと考えているところです。

また、補助の内容につきましても、昨年度から実施している27区市町村に対しまして、今年度アンケート調査を行っており、自治体によって差がある状況を把握しているところです。補助の内容については、今の内容で固めるわけではなくて、必要に応じて柔軟に見直しをしながら、改善を図っていききたいと考えているところです。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

都内で格差ができる限りないような形にもっていければと思っております。どうぞよろしくお願いします。

渡邊委員、今のご回答でよろしかったでしょうか。

○渡邊委員 ありがとうございます。

○松本ワーキンググループ長 はい、ありがとうございました。

片山委員、どうぞ。

○片山委員 がんの子どもを守る会の片山と申します。よろしくお願いいたします。

まずは、東京都の皆様いろいろな準備をしていただいていることに本当にありがたいと思います。その中で、若年がん患者在宅療養支援事業についてお伺いしたいのですが、現時点では実施自治体が七つということでまだまだ少ないので、ぜひ推進していただきたいと思っているのですが、東京都として、自治体に働きかける予定があるかどうか、教えていただきたいと思います。

○松本ワーキンググループ長 田村さん、お願いします。

○田村医療連携・歯科担当課長 この補助事業自体が今年度始まったばかりという事情が大きいかと思います。昨年度までは自治体が独自にやられていたところが4自治体だけですけれども、今年度になって都の補助も始まったところもあり、若干ですけれども3自治体ほど数が増えている状況になってございます。

ただ、この制度ができたばかりというところもありまして、自治体でも予算化ができていないところもございますので、こちらとしましても自治体に対して制度説明をしてきておりますので、次年度、どれぐらいまだ増えるか分かりませんが、できるだけ増やしていきたいと思っておりますし、増えるようにこの取組を進めていきたいと考えているところでございます。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

来年度はこれの何十倍とは言いませんけども、5倍・6倍増えるようになるといいと考えております。ありがとうございました。

鈴木彩委員、どうぞ。

○鈴木彩委員 成育医療研究センターのソーシャルワーカーの鈴木です。

いろいろな事業の取組を進めていただいて感謝申し上げます。私が最初にこの委員をさせていただいたときに言っていたことが、次々と実施されているというのを実感していて大変ありがたく思っております。

今、片山委員からもご指摘のあった在宅がん患者の支援事業ですけれども、表の下に、「20歳未満の小児慢性特定疾病医療費の支給を受けている場合は、①、②、③のみが対象になる」と書いてあるのですけれども、小児の場合、多分ほとんどケアプランを立てる方はいらっしゃらなくて、実際にこれを利用された方がいるのかなというのは疑問ですけど、私がお願いしたいのが、④と⑤についてです。こういった福祉用具を使うことをお勧めする場合、ほとんどの患者さんがターミナルの方ですので、購入も、どのぐらいの時期に使うか分からないということもあって、私たち相談員としてもレンタルをお勧めしている、それは時間的な問題もあって、小児慢性で支給を受けようと思うと、最低でも2週間、もっと長いと1か月とかかかってしまうので、その病気の進行のスピードに間に合わないので、レンタルをお勧めしています。

ですので、こちらに関しては、できたら貸与についても対象にさせていただきたいと思っています。今年度、すでにこの内容で実施してしまっているのであれば、来年度からこれは変更していただけたらと思っているのと、そもそも、小児慢性の日常生活用具の給付を行っていない自治体もあると思います。都内においてもそうです。ですので、その辺りの状況も確認していただいて、行っていない自治体であれば、行っていただけるようにしていただきたいと思います。

また、脳腫瘍のお子さんですとリクライニング式の車椅子を使われていますが、小児慢性の日常生活用具の給付の上限額では、リクライニング式の車椅子の購入ができません。なかなかレンタルも難しい場合もあるのですけれども、そういったところがまだまだ足りないと感じていますので、この辺りぜひご検討いただければと思っています。

○松本ワーキンググループ長　ありがとうございます。

いかがでしょうか、田村さん。

○田村医療連携・歯科担当課長　今年度に始まったばかりですので、来年度からすぐに変えるというのは難しいですけど、実際に取り組まれている自治体のご意見や、関係者の方々からのヒアリング等を通じまして、こちらの内容につきましても、ずっとこのままというところではありませんので、改善が必要なところに関しては検討したいと思います。今の段階で実情がどうかというところは把握できていないところがございしますので、改めて確認した上で、検討ができればと思います。

○松本ワーキンググループ長　ありがとうございます。

確かに小慢でカバーされているので、ここでは省いたほうがいいのかというお考えでこういう体制になっていると思うのですが、もう少しフレキシブルな運用ができればもっともっと助かる人が多いのと思うところであります。まだ実施自治体が少ないので、もう少し精査していただいて、フレキシブルな運用をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

ほかに何かご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

この後の議事もありますので、またご意見をお寄せいただければと思っております。

続いて、議事の（２）に移りたいと思います。

事務局から議事（２）の説明をお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 事務局から資料の４の説明をさせていただきます。スライドの２枚目をご覧ください。

東京都がんポータルサイトにおける小児・AYA世代がん関連のコンテンツについてのご説明の前に、まずは今年度に予定しております東京都がんポータルサイトのリニューアルについてご説明させていただきます。

都では、今年度、東京都がんポータルサイトにおける効果的な情報発信と利便性向上のために、サイトの再構築を行うことを予定してございます。リニューアルの時期は令和７年２月を予定してございます。

主な内容としましては、現在保健医療局のサーバー上にありますサイトを外部サーバーへ移行することで、デザイン、レイアウト等の調整を可能とし、より見やすいサイトといたします。

また、検索機能やチャットボット等の機能の追加を考えてございます。

また、都内がん診療連携拠点病院などの外部ユーザーに対しまして、一部ですけれども編集権限を付与することでイベント情報等の周知を強化する予定でございます。

参考資料の２をご覧ください。

こちら、がんポータルサイトのリニューアルのイメージの資料になってございます。

左側が現行の東京都がんポータルサイトのトップページ。右側がこちら沖縄県のがん情報ポータルサイト、沖縄がん情報サイト「みるん・しるん」のトップページになってございます。先ほど申し上げましたように外部サーバーへ移行することで、こんな感じにより見やすいレイアウトとか書式とすることが可能となります。

スライド２ページをお進みください。

こちら左側が現在の東京都のがんポータルサイトのコンテンツのページになってございまして、字だけというような感じになっておりますが、右側が愛媛県のがん情報提供サービスページであります、がんサポートサイトえひめのコンテンツページになってございます。同じく外部サーバーへ移行することで、こういったイラストが入ることで、より自由度の高い編集が可能となります。

３ページ目へお進みください。

こちら、また左側が東京都のがんポータルサイトの「病院を探す」の検索画面になっておりまして、右側が沖縄県のポータルサイトの病院検索の画面です。現行では東京都の場合、地域とか病院の種類ごとにクリックすると一覧がずらっと出てくるだけの内容ですけれども、リニューアル後につきましては、沖縄県のサイトのように検索機能と

か絞り込み機能を追加する予定としてございます。

4 ページ目にお進みください。

左側が今の東京都のがんポータルサイトのイベント情報の一覧ページになってございます。右側が奈良県のがん情報提供ポータルサイト「がんネットなら」のイベント情報等の一覧ページです。現行では、開催情報につきましては、都の情報提供があった順に掲載しているのみですので、時系列に沿っているわけではないのですが、リニューアル後は病院や支援団体にも編集権限を付与することで、いつ・どんなイベントが開催されるのかを一目で分かるようなつくりとしまして、イベント情報発信力強化する予定としてございます。

また資料の4にお戻りください。

以上が、がんポータルサイトの主なリニューアルの内容となりますけれども、詳細につきましては現在委託業者と調整しながら、リニューアル全体に係る内容については、主にがんとの共生部会におきまして議論していただいて、進めていきます。

また、サイトのリニューアルに合わせまして、サイト内のコンテンツの見直しや新規追加投入に取り組む予定としてございます。こちらの小児・AYA世代がん関連に関する内容につきましては、本日のワーキンググループについて、この後ご議論いただきたいと思います。

なお、リニューアルに合わせまして、サイトの認知度向上のための広報も併せて実施予定ということになってございます。

次のスライドをお進みください。

こちらの資料ですけれども、項目ごとに記載内容と整理案を記載してございます。

まずは、項目ごとに区切ってご質問とか意見をいただければと思います。

こちらがまずは一つ目ですけれども、東京都がんポータルサイトの現在の小児・AYA世代がんに関するコンテンツの掲載状況となっております。赤枠で囲っている箇所が、小児・AYA世代がんのコンテンツとなっております。結構バラバラに散っているような状況でございます。それが、右側が見直し後のイメージですけれども、小児・AYA世代がんのコンテンツにつきましてどういった情報があるのか、こちらに一目で分かるようなページをつくりまして、そこから各コンテンツへアクセスできるようにしたいと考えてございます。今後、構成を検討した上で関連する情報を集約し、関心のあるコンテンツにスムーズにアクセスできることを目指していきます。

次のスライドにお進みください。

まず、継続予定のコンテンツでございます。上から順にご説明いたします。

一つ目は、「AYA世代がん相談情報センター」の情報を掲載したコンテンツとなっております。

二つ目が、「がん専門相談員のためのAYA世代がん患者・家族への相談支援マニュアル」を掲載したコンテンツ。

三つ目が、「AYA世代の方へのご案内」を掲載したコンテンツ。こちらは東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会が作成したAYA世代のがん患者向けのリーフレットになってございます。

四つ目が、「若年がん患者在宅療養支援事業」の情報を掲載したコンテンツ。

五つ目が、がんの子どもを守る会、片山委員にご執筆いただきました「小児がんの療養生活～知っておきたい10のポイント～」になってございます。

これらのコンテンツにつきましては、リニューアル後も継続して掲載する予定で考えてございます。

以上が、継続掲載予定のコンテンツについての説明になります。

ここまでの内容につきまして、何かご質問等がございましたらお伺いできればと思います。

○松本ワーキンググループ長 それでは掲載予定のこのまま残るコンテンツということですが、何かご意見ありますでしょうか。

全体を見通してから戻ったほうが、もしかしたらいいかもしれないとは思いますが、コンテンツの内容に至るまでのところでも何でもいいですが、何か全体のところでありますか。

私は、最初の3ページ目ですかね、東京都のがんポータルサイト内の小児がんが散らばっているというのは、ごった煮のような感じがすごくして、あるいは統制の取れていない幕の内弁当といいますか、何がどこにあって、見つけるにはどうしたらいいだろうというのが分からない状況なので、やはり患者さん目線で患者さんがどういう情報を求めているのかというのが大事だろうと思っています。

そして、もう一つ事務局の方には申し上げたのですが、AYA世代がんと言われて、ぱっと気がつく人ってどこまでいるのかということも少し思っていて、例えば、30歳に胃がんになった方がAYA世代のがんのところを見たら、そういう情報にたどり着けるというのが分からないのではということもあって、何かいい方法はないのかとお話はしていたところでございます。

鈴木彩委員、どうぞ。

○鈴木彩委員 ありがとうございます。成育医療センターのソーシャルワーカー鈴木です。

今の情報をまとめるということで、次の4枚目のスライドを見ていると、2の相談支援マニュアルだけ対象者が相談員で、それ以外は患者さんと思うのですが、それが3枚目のスライドの枠の中に一緒に入るという認識でよろしいでしょうか。医療従事者が見るページと患者さんが見るページとには分かれていないのか、教えていただければと思います。

○松本ワーキンググループ長 田村さん、どうぞお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 こちらのサイトの大まかな構成につきましては先ほど言いましたように、がんとの共生部会でご議論されているのですが、そちらでお示

ししている資料によりますと、この見直し後というところのコンテンツの一番上のところに、患者や家族向けの入口と、医療従事者向けの入口を設けようと考えてございます。そこから入っていくことによって、それぞれの必要な情報を入れるということになるので、医療従事者向けに関してはそちらから入っていただくと、このマニュアル等が見られるような形にもなりますし、またその入口の下にテーマごと、例えば、緩和ケア、小児がん、AYA世代がんのような枠をつくった中に、まとめて入れるというようなイメージを、資料4でお見せしている形になってございます。

ですので、今、このワーキングのところでは、まずは必要な情報として何を残して何を削る、または何を新たに追加してというところを整理いただいて、それを統合しながら最終的に2月にオープンする前には、関係する方々にサイトをチェックしてもらいながら、構成に関して詰めていければと思っております。この2回目のワーキングの中でも、改めて確認できればと思っております。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

○鈴木彩委員 ありがとうございます。

○松本ワーキンググループ長 鈴木委員、ありがとうございました。

鈴木美穂委員、どうぞお願いします。

○鈴木美穂委員 ありがとうございます。

まず、バラバラに散らばった小児がん・AYA世代がんの情報が一つのところで分かりやすくというのは本当にありがとうございます。そうしていただけると助かります。

その中で、この小児がん・AYA世代がんのコンテンツは、ここを押すと出てくる感じで、その情報がまとまったページというのできる形になるのでしょうか。もしくは、小児がん・AYA世代の部分だけをここにまとまっていますよとシェアできる形になるのかどうかというのを教えていただけたらありがたいです。

また、東京都がんポータルサイトの中で、各患者団体や医療機関などがイベントのお知らせが発信できるということですが、小児がん・AYA世代がんについてのイベントは、小児がん・AYA世代のイベントとして区別されて、こちらにも載るような形になるのでしょうか。

その2点、よろしくお願いします。

○松本ワーキンググループ長 田村さん、お願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 まだ確定はしておりませんが、ここを開くことによってある程度まとめて見られるようにしたいとは考えています。その中で、サイト全体の構成を勘案しながら小児・AYAに関するコンテンツの配置を調整していきたいと思っておりますし、イベント情報につきましては、タグづけのように区別する機能を検討しておりますので、小児・AYAに関するイベントだったらこの色みたいな感じで、ページ上に表示することも考えられるかと思っております。

ただし、現状はまだトップページの部分の構成を行っている段階ということもあり、



そのほかの部分の構成がまだ出来上がっておりませんので、業者と調整しながら徐々に詰めていければと考えているところでございます。

○鈴木美穂委員 ありがとうございます。

すごく細かいことですが、「東京都がんポータルサイトの中に入って、小児がん・AYA世代がんに関する情報は、ここのボタンを押すとその情報が見られますよ」と伝えるのがとても難しいので、東京都の小児がん・AYA世代がんに関する内容がまとまっている独立したURLがあると大変助かると思いました。これから構築できるのであれば、ぜひ考えていただければありがたいです。よろしくお願いします。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

ほかに全体構成、それから先ほどの継続掲載のコンテンツに関して、あるいは何かご意見ありましたら、ぜひお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

清水委員、お願いいたします。

○清水委員 ありがとうございます。

ポータルサイトがきれいに見やすくなっていくということは非常に大事だというふうに思っております。各委員がおっしゃっているように、小児・AYA世代がんに関する様々な情報やイベントなどの情報がポータルサイト上で見やすく分かりやすい場所に置かれるということも大事かと思いますが、小児・AYA世代の情報収集ということを考えますとインスタグラムとか、SNSを使って情報収集する人が多いということもあって、そういった形での発信というのは考えておられるかどうか聞かせていただければと思います。

○松本ワーキンググループ長 田村さん、お願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 現在の案では、SNSでシェアできるような機能を追加することを想定しておりますので、どこまで盛り込むかはまだ決定はしていないところですが、SNSの活用は検討しているところですので、小児・AYA世代の情報収集についても考慮できればと考えているところでございます。

○清水委員 イベントなどに関しては、SNSを活用した発信というのはこれから重要になってくるのではないかと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

確かに本当に、今、皆さんSNSでやっていらっしゃる人が多いと思います。特に情報の中の一番旬な情報、そういう生の情報に関しては、ぜひそういうツールを使って発信できるのかなと思いますので、そういう体制を東京都の中で構築していただければと考える次第であります。ありがとうございました。

それでは、継続掲載以外の見直し予定と、それから新たに追加予定のコンテンツがございますので、その次に進ませていただいて、また全体で聞きたいと思います。

湯坐委員、お願いします。

○湯坐委員 最初に松本委員がおっしゃったように、患者さんとそのご家族向けというこ

とであれば、言葉を砕いて表題をつけないと分からないと思っています。今までがんポータルサイトは医者とか医療機関が見て、その情報を患者さんに還元するサイトという感じで認識していました。

場合によっては、患者さん向け、医療関係者向けみたいにタグをつけて、同じ内容だけど、言葉を易しくするのと専門性でいくのとがあってもいいのかもしれないです。

また、SNSの活用ですが、スマホ版みたいなサイトもつくられるのですか。今のサイトですとスマホで見たとき全然見られないと思いますが、その辺いかがでしょうか。

○松本ワーキンググループ長 事務局よりお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 スマホ版についても、業者と調整を進めているところになりまして、スマホ版ではスマホに特化した構成を検討しているところでございます。Web版と構成が変わってくるところはありますけれども、がんとの共生部会において、トップページの部分だけですけれども、イメージとしてお示ししており、ご意見いただいたりしているところになってございます。

○湯坐委員 了解です。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

継続掲載のサイトに関しましても、ぜひ皆さんご覧になって、ここはやっぱり分けたほうがいいのか、先ほどもありました相談員のためなら相談員のため、あるいは患者さん向けなら患者さん向けにきちんと分けたほうがいいのか、こういったところはどういうふうにしたほうがいいのか、何かご意見ありましたら、ぜひ後でお寄せいただければと思います。

それでは、見直し予定のコンテンツについてご説明をお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 こちらが見直し予定のコンテンツの一覧になってございます。上から順にご説明いたします。

まず、東京都の小児がん対策としまして、四つの取組などを掲載したコンテンツになってございます。コンテンツ名を「東京都の小児がん対策」から、「小児がんやAYA世代のがんの情報（仮）」に変更した上で、情報をより分かりやすく掲載したいと考えてございます。

案としましては既存の情報を整理しまして、小児がん・AYA世代がんについてのページを設けること。東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会の取組を紹介するページを追加すること。また、掲載中の四つの取組などについては、より分かりやすくしていくことを検討してございます。

また、2から4までは若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業に関するコンテンツになってございます。

二つ目が、「東京都若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業」ですけれども、こちらは助成の仕組みや申請方法について掲載しておりまして、患者からのアクセスが多いコンテンツになってございます。こちら構成を分かりやすくして、確認したい情報

にスムーズにアクセスできるように整理を進めてまいります。

また、東京都がん生殖医療連携ネットワークの取組を紹介するページも追加したいと考えてございます。

三つ目の「生殖機能（妊孕性）の温存」につきましては、掲載内容の大半が二つ目のコンテンツと重複するために統合する予定としてございます。

四つ目の「若年がん患者等生殖機能温存治療費助成事業の申請方法から支給までの実際とFAQ」につきましては、医療従事者向けの説明動画となつてございます。こちらは情報が古くなってきてございますので、削除する予定としてございます。なお、継続的な情報収集のため、既存の「よくある質問とその回答FAQ」につきましては、内容を充実させまして、上記2のコンテンツに統合する予定としてございます。

以上が、見直し予定のコンテンツについての説明になります。ここまでにについて、何かご意見等ございましたら、お伺いできればと思います。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

小児がん対策のところを、小児・AYA世代の情報に広げて少し分かりやすくすることと、東京都の若年患者等生殖機能温存の助成事業のところを、生殖関係のことはまとめていくというお話だったと思いますが、この見直し予定のコンテンツにつきまして、皆さん何かご意見ございますでしょうか。

例えば、小児・AYAがんの情報というところで、相談情報部会で五つリーフレットを作っているのですが、そういうものも載せるという形でよろしかったでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 こちらに直接載せるかリンクを貼るかというところはあるのですが、そういった情報も載せていければと考えています。

○松本ワーキンググループ長 ぜひそうですね。患者さん向けの情報と、医療者向けの情報はある程度分けながらも、お互いに見られるような形というのも大事なのかなと思います。

ありがとうございます。ほかに何かこの見直し予定のコンテンツについてのご意見等ございますか。

片山委員、どうぞお願いします。

○片山委員 がんの子どもを守る会の片山です。ありがとうございます。

例えば、理由及び掲載内容（案）の2つ目の助成事業について、三つ目のポチに「啓発用資材を掲載」と書いてあるのですが、私もいろいろな自治体を調べたり、ご家族とも一緒に探したりすると、いろいろ書いてあるけれども、情報量が多過ぎて分かりにくいということがよくあるので、この分かりやすいリーフレットを掲載していただく場合には、例えば、上のほうとか分かりやすい位置に配置して、そこを見れば大体アウトラインが分かるという配置にさせていただくとありがたいと思いましたので、ぜひお願いいたします。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

確かに下まで触ってやらないと、最後になってようやく分かりやすく載っているというのは寂しいですね。ぜひ考えていただければと思います。

ほかにご意見ございますでしょうか。

それでは、次に新たな追加予定のコンテンツにつきまして、ご説明をお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 次のスライドです。

こちらが新たに追加予定のコンテンツの一覧となっております。上から順にご説明いたします。

まず、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業を紹介するコンテンツでございます。小児がん患者向けの情報として概要を掲載した上で、事業の詳細につきましては実施している福祉局のホームページにアクセスして確認できる形にいたします。

次に、小児がんの長期フォローアップ、移行期医療に関するコンテンツでございます。

概要につきましては、「小児がんやAYA世代がんの情報」のところに掲載する予定でございます。長期フォローアップに対応可能な医療機関の情報につきましては、現時点ではまだすぐには掲載が難しいと考えているのですけれども、今後の対応に向けて検討を進めていきたいと考えてございます。

以上が、新たに追加予定のコンテンツについてのご説明になります。

これら以外にも、何か小児・AYA世代がんに関して追加したほうがいいコンテンツなどがありましたらご意見として伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

清水委員、お願いいたします。

○清水委員 ありがとうございます。

必ずしもがんに関係しないところですが、小児がんの経験者、AYA世代の方の学業の継続、新規就労での情報のニーズがすごく多いと思っております。そういった直接がんに関する情報ではありませんけれど、都として取り組んでいる就労支援の取組とか、若者何とかサポートとか、ハローワークとか、学業の取組があるようでしたら、情報を掲載していただけると役立つのではと思います。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思います。

就労のことと就学、あるいは学業のことに関しての都がしている取組について、リンクを貼るなりで情報が分かるようにしていただきたいということだと思います。ぜひ考えていただければと思います。ありがとうございました。

ほかに何か皆さんございますでしょうか。

それでは、追加したいことというのはこれぐらいでよろしいでしょうか。短い時間ですので、いろいろな方の意見、あるいは何か思いつかれたことがありましたら、ぜひ事務局にお知らせいただければと思います。

さて、今のポータルサイトの継続掲載、見直し予定、新たに追加という、この三つに

ついて議論させていただきましたが、全体を通して何かございましたら何でも結構ですので、ご意見をお聞かせいただければと思います。ぜひよろしくお願いします。いかがでしょうか。

鈴木美穂委員、お願いします。

○鈴木美穂委員 鈴木です。

文字で分かりやすく掲載すると書かれていても、本当に分かりやすいかが実際のページになってみないと分からないところがあります。もちろん当事者の方や医療従事関係者の方などにヒアリングしながら改善していくということを聞いているのですが、がんとの共生部会もそうですけれども、小児・AYAの専門家がいるこちらでも、実際のページを見ながら改修していけるという余地を残して、これで出来上がったので改善できませんという状態で見せていただくのは、行政の会議ではよくあることですが、控えていただいて、改善できるタイミングでぜひ共有いただけたらありがたいと思っています。よろしくお願いします。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

田村さん、どうぞぜひともよろしくお願いいたしたいと思います。

清水委員、お願いします。

○清水委員 各論のところ、新規コンテンツとして追加しておいたほうがよいと思われるものとして、親ががんになったときのお子さんの対応について、ヤングアダルトでは結構ニーズがあると思うので、ぜひご検討をお願いできればと思います。

○松本ワーキンググループ長 確かにそうですね。小児の場合ですと、きょうだい支援とか、そういうページがあると本当はいいのかなと思います。きょうだい支援として、都として取り組んでいることも含めて何かあるといいと思います。

確かに、がんになった親のお子さんをどうしたらいいかというのも、何かきちんとした情報提供というのがあるといいかと思っています。

事務局いかがでしょうか。

○田村医療連携・歯科担当課長 がんポータルサイトのコンテンツとして、どこまできちんとこちらで作り込むのがいいのか、どこかに参考になるサイトがあればそちらに誘導するほうがいいのかというところは、確認の上検討させていただければと思います。

○松本ワーキンググループ長 ありがとうございます。

例えば、国立がん研究センターのホームページとか、いろいろな情報が載っていたり、きちんとした確かな情報が載っているページのリンクを貼っていただいて誘導する形であったり、ほかにもがんの子どもを守る会さんのホームページも本当にしっかりしているので、そういうページに誘導できるような形が取れるといいと思います。

ありがとうございます。

ほかに何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは最後に、本日の議題全体を通してご意見や言い残したことがある方はいらっ

しゃいますでしょうか。言い残したことがある人は今のうちにぜひおっしゃっていただければと思いますがいかがですか。よろしいでしょうか。

それでは、長い時間非常に活発なご議論をいただきまして本当にありがとうございます。それでは、ほかにないようですので、事務局にお返ししたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○田村医療連携・歯科担当課長 本日は本当に活発なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題につきまして、さらにまだご意見等がある場合につきましては、来週の金曜日、11月1日までにメールで事務局にご連絡いただければと思います。

また、今後の本ワーキンググループにつきましては、次回は12月18日（水曜日）16時より開催させていただく予定としてございますので、ご出席についてどうかよろしくお願いいたします。

事務局から以上になります。

それではこれで、第10回小児・AYA世代がんワーキンググループを終了させていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

（午後 7時18分 閉会）